

はじめに

本書は、平成25年に改正された技術士第二次試験の受験対策について解説したものです。「建設部門」を対象としており、取り上げる過去問題や解答例も建設部門のものですが、その受験対策は、総合技術監理部門を除くあらゆる部門に適用できます。

技術士第二次試験は、過去に出題された問題が形式を変えて出題されます。それは新制度となっても変わりありません。新制度の技術士第二次試験の受験対策も、出題傾向を分析し、過去問題を理解しておくことが重要となります。本書は、出題傾向を分析するとともに、過去問題について公益社団法人日本技術士会が公表している「評価基準」を満たす解答方法を解説しています。(この「評価基準」は、旧制度では公表されていませんでしたが、多くの技術士の誕生を望む日本技術士会の意向から、公表されるようになりました。)

本書は、特に重要な箇所を太字で表示しました。また、各章に【キーポイント】を設けて、受験対策の要点をできるだけわかりやすくしました。【キーポイント】は、筆者が毎年行っている受験対策講座における受講生の質問内容などから、ここは理解しておいたほうがよいと思う内容をとりまとめたものです。日ごろの業務の空き時間にさっと読め、受験勉強の見直しができるようにしました。

読者の皆様の合格に少しでもお役に立てれば幸いです。

建設／環境／総合技術監理部門
技術士 小久保 優

目 次

第 1 章 技術士第二次試験の内容	1
1.1 技術士第二次試験新制度の概要	1
1.2 技術士第二次試験の受験資格	5
1.3 受験申込書と業務経歴票の書き方	7
1.4 筆記試験の取り組み方	8
1.5 口頭試験の取り組み方	10
第 2 章 受験申込書と業務経歴票の書き方とテクニック	11
2.1 受験申込書と業務経歴票の書き方	11
2.1.1 受験申込書と業務経歴票の原則	11
2.1.2 受験申込書の記入	12
2.1.3 業務経歴票の記入	13
2.2 技術士にふさわしい技術的体験（業務内容）の検討	16
2.2.1 技術士に「ふさわしい業務」と「ふさわしくない業務」	17
2.2.2 過去の技術的体験（業務内容）の棚卸し	18
2.2.3 「技術士にふさわしい技術的体験（業務内容）」の判定	22
2.2.4 「職務内容」と「業務内容の詳細（業務経歴小論文）」の作成	26
第 3 章 論文の書き方と避けたい表現	31
3.1 現代表記法による論文作成の基本事項	31
3.1.1 論文の文体	31
3.1.2 論文の基本原則	31
3.1.3 論文の構成	37
3.2 答案で避けたい表現	39

第4章 必須科目（問題Ⅰ）対策	43
4.1 必須科目の内容	43
4.1.1 必須科目の概要	43
4.1.2 必須科目の評価基準	44
4.2 必須科目の学習方法	45
4.2.1 平成13～18年度と平成25年度の択一式試験の内容	47
4.2.2 平成20年度以降のRCCM試験の内容	53
4.2.3 平成13～24年度までの記述式試験の内容	58
4.3 必須科目の択一式試験の要点	61
4.3.1 建設部門に不可欠な技術	61
4.3.2 社会的に重要なキーワード	74
4.3.3 業務における関連法規	101
4.3.4 業務における関連制度	115
第5章 選択科目〔専門知識・応用能力〕（問題Ⅱ）対策	129
5.1 選択科目〔専門知識・応用能力〕の内容	129
5.1.1 選択科目〔専門知識・応用能力〕の概要	129
5.1.2 選択科目〔専門知識・応用能力〕の評価基準	130
5.2 選択科目〔専門知識・応用能力〕の学習方法	131
5.2.1 評価基準を理解し、対策を立てる	131
5.2.2 過去の問題を分析する	134
5.2.3 合格のための情報を収集する	139
5.3 選択科目〔専門知識・応用能力〕の解答のポイント	141
例 土質及び基礎 都市及び地方計画	
5.4 選択科目〔専門知識・応用能力〕の分析例	152
例 鋼構造及びコンクリート 道路 施工計画、施工設備及び積算	
5.4.1 過去の問題の分析	152
5.4.2 過去の問題の分析例	152

第6章	選択科目〔課題解決能力〕(問題Ⅲ)対策	201
6.1	選択科目〔課題解決能力〕の内容	201
6.1.1	選択科目〔課題解決能力〕の概要	201
6.1.2	選択科目〔課題解決能力〕の評価基準	201
6.2	選択科目〔課題解決能力〕の学習方法	203
6.2.1	評価基準を理解し、対策を立てる	203
6.2.2	解答論文のまとめかた(構成と内容)を理解する	204
6.2.3	選択科目の課題を抽出し解決策をまとめておく	205
6.2.4	合格のための情報を収集する	205
6.3	選択科目〔課題解決能力〕の解答のポイント	208
6.4	選択科目〔課題解決能力〕の解答記述例1	210
	例 河川、砂防及び海岸・海洋	
6.4.1	「問題点・課題」の考え方	212
6.4.2	「技術的提案」の考え方	215
6.4.3	「評価・今後の展望」の考え方	222
6.5	選択科目〔課題解決能力〕の解答記述例2	226
	例 河川、砂防及び海岸・海洋	
第7章	筆記試験後の対応	233
第8章	口頭試験対策	239
8.1	口頭試験の内容	239
8.1.1	口頭試験の概要	239
8.1.2	口頭試験の評価基準	240
8.2	口頭試験の対策	241
8.2.1	受験者の技術的体験を中心とする経歴の内容及び応用能力	242
8.2.2	技術士としての適格性及び一般的知識	248
8.3	口頭試験で失敗しないプレゼンテーション法	258
8.3.1	プレゼンテーションの内容	258

目 次

8.3.2 プレゼンテーションの準備	260
8.4 口頭試験における応答	267
8.4.1 口頭試験の応答の仕方	267
8.4.2 口頭試験シミュレーション	271

技術士第二次試験の内容

1.1 技術士第二次試験新制度の概要

平成 25 年度から技術士第二次試験は大きく変化しました。以下に技術士第二次試験（総合技術監理部門を除く技術部門）の新制度の概要、スケジュール、試験内容を示します。

キーポイント 1 技術士第二次試験新制度の概要

- ◎ **業務経歴票**は「**業務内容の詳細**（業務経歴小論文）」（720 字以内）が追加され、**技術的体験（業務内容）**をより詳細に記載できるようになりました。これにより、技術的体験論文は廃止されました。
- ◎ **必須科目**（問題Ⅰ）は**択一式**となりました。「**技術部門全般にわたる**」**専門知識**が問われ従来よりも**幅広い知識**が要求されるようになりました。
- ◎ **選択科目**は**記述式**です。「**選択科目**」に関する「**専門知識**」（問題Ⅱ-1）「**応用能力**」（問題Ⅱ-2）に加え、「**課題解決能力**」（問題Ⅲ）が問われるようになりました。「**専門知識**」「**応用能力**」を問う試験は、**出題範囲は以前と変わりませんが、出題数は減少し、解答数の 2 倍程度**となりました。新設の「**課題解決能力**」を問う試験では、**選択科目に関する社会変化や最新技術のほか、時事問題に偏らない普遍的な課題**が出題されます。**出題数は 2 問程度、そのうち 1 問**を選び解答します。
- ◎ **口頭試験**は「**経歴及び応用能力**」「**技術者倫理**」「**技術士制度の認識その他**」が問われます。平成 24 年度までの「**体系的専門知識**」「**技術に対する見識**」は廃止されました。「**技術者倫理**」は**実務を踏まえた試問を重視**します。**試験時間は 20 分**となり、必要に応じて**10 分程度延長**されます。

1 受験申込（4月中旬～5月上旬）

受験申込書及び業務経歴票〔証明書〕（p.11）ほか提出書類を、公益社団法人日本技術士会 技術士試験センターまで郵送または持参する。

- ① 受験申込書、② 業務経歴票〔証明書〕、③ 写真、④ 受験手数料払込受付証明書、⑤ 技術士補となる資格を有することを証明する書類、⑥ その他の証明書類の提出が必要となる場合の書類



2 受験票発送（7月中旬）



3 筆記試験（8月上旬）

- I 必須科目（択一式）「技術部門」全般にわたる〔専門知識〕（p.43）
- II 選択科目（記述式）「選択科目」に関する〔専門知識〕と〔応用能力〕（p.129）
- III 選択科目（記述式）「選択科目」に関する〔課題解決能力〕（p.201）



4 筆記試験合格者発表（10月下旬）



5 口頭試験（11月下旬～1月下旬）（p.239）

- I 受験者の技術的体験を中心とする経歴の内容と応用能力
〔経歴及び応用能力〕
- II 技術士としての適格性及び一般的知識
〔技術者倫理〕〔技術士制度の認識その他〕



6 技術士第二次試験合格者発表（3月上旬）

技術士第二次試験（総合技術監理部門を除く技術部門）のスケジュール

技術士第二次試験（総合技術監理部門を除く技術部門）筆記試験					
試験科目		問題の種類	試験方法	試験時間	配点
必須科目	改正前	「技術部門」全般にわたる 〔論理的考察力〕と〔課題 解決能力〕	記述式 600字詰用紙 3枚以内	2時間30分	50点
	改正後	「技術部門」全般にわたる 〔専門知識〕（問題Ⅰ）	択一式 20問出題 15問解答	1時間30分	30点
選択科目	改正前	「選択科目」に関する〔専 門知識〕と〔応用能力〕	記述式 600字詰用紙 6枚以内	3時間30分	50点
	改正後	「選択科目」に関する〔専 門知識〕（問題Ⅱ-1）と〔応 用能力〕（問題Ⅱ-2）	記述式 600字詰用紙 4枚以内	2時間	40点
	新設	「選択科目」に関する〔課 題解決能力〕（問題Ⅲ）	記述式 600字詰用紙 3枚以内	2時間	40点
筆記試験 合格者	改正前	技術的体験論文の提出			
	改正後	廃止（受験申込み時に提出する業務経歴票に「業務内容の詳細」（業 務経歴小論文）を追加）			

* 1 必須科目（問題Ⅰ）の成績が合否決定基準に満たない者については、選択科目の採点を行わない（平成27年度試験から）

* 2 選択科目（問題Ⅱ・Ⅲ）

- ・〔専門知識〕（問題Ⅱ-1）：4問のうち2問選択し、各600字詰用紙1枚以内に記述（計2枚）
- ・〔応用能力〕（問題Ⅱ-2）：2問のうち1問選択し、600字詰用紙2枚以内に記述
- ・〔課題解決能力〕（問題Ⅲ）：2問のうち1問選択し、600字詰用紙3枚以内に記述

（参考）平成25年の筆記試験タイムスケジュール

10:00～11:30	問題Ⅰ	必須科目
11:30～12:30	休憩	
12:30～14:30	問題Ⅱ	選択科目〔専門知識・応用能力〕
14:30～15:00	休憩	
15:00～17:00	問題Ⅲ	選択科目〔課題解決能力〕

技術士第二次試験（総合技術監理部門を除く技術部門）口頭試験			
試問事項		試験方法など	配点
受験者の技術的体験を中心とする経歴の内容と応用能力	改正前	[経歴及び応用能力] 技術的体験論文と業務経歴により試問	40点
	改正後	[経歴及び応用能力] 筆記試験における答案（課題解決能力）と業務経歴により試問	60点
必須科目及び選択科目に関する技術士として必要な専門知識及び見識	改正前	[体系的専門知識]	20点
		[技術に対する見識]	20点
	改正後	廃止	—
技術士としての適格性及び一般的知識	改正前	[技術者倫理]	10点
		[技術士制度の認識その他]	10点
	改正後	[技術者倫理]	20点
		[技術士制度の認識その他]	20点

* 試験時間は、改正前は45分であったが、改正後は20分となった。ただし、10分程度延長することが可能となった。

必須科目（問題Ⅰ）対策

4.1 必須科目の内容

4.1.1 必須科目の概要

必須科目は、平成13～18年度までは「『技術部門』全般にわたる**一般的専門知識**」を評価基準する**択一式**と**記述式**試験が、平成19～24年度までは「『技術部門』全般にわたる**論理的考察力**と**課題解決能力**」を評価基準する**記述式**試験が、実施されていました。

平成25年度からは、記述式試験が廃止され、新たに「『技術部門』**全般にわたる専門知識**」を評価基準とする**択一式**試験となりました。**20問が出題され15問を解答**します。**試験時間は1時間30分で配点は30点**となりました。**9問（60%以上の得点）が合格の目安**です。合否の判定は、選択科目との合計ではないので、たとえ、選択科目（記述式）試験（問題Ⅱ、問題Ⅲ）の点数がよくても、必須科目（択一式）試験（問題Ⅰ）の点数が合格の基準に満たなければ不合格となります。

平成27年度からは、必須科目（択一式）試験（問題Ⅰ）の成績が合否決定基準に満たない者については、選択科目（記述式）試験（問題Ⅱ、問題Ⅲ）の採点が行われなくなります。

建設部門では、「**建設部門**」**全般にわたる専門知識**が問われます。**専門知識**とは、「**技術部門**」において**不可欠な技術、業務遂行に際して必要な社会制度などに関する専門的な知識**をいいます。「**建設部門**」が抱える課題を最新の**技術情報により認識する能力**を問う試験です。

必須科目 [専門知識] (問題Ⅰ) の概要				
試験科目	問題の種類	試験方法	試験時間	配点
必須科目 [専門知識]	「技術部門」全般にわたる [専門知識]	択一式 20 問出題 15 問解答	1 時間 30 分	30 点

4.1.2 必須科目の評価基準

公益社団法人日本技術士会が「平成 25 年度 技術士第二次試験制度の概要について」で公表している、**評価基準**（「技術部門」全般にわたる専門知識）の**概念と内容**を示します。

キーポイント 18	必須科目の評価基準 [専門知識] の概念と内容
◎ [専門知識] の概念とは	「技術部門」において不可欠な技術、業務遂行に際して、必要な社会制度等に関する専門的な知識。
◎ [専門知識] の内容とは	「技術部門」における 不可欠な技術、社会的に重要なキーワード、業務における関連法規・制度等 に対する専門的知識を問う。

4.2 必須科目の学習方法

平成 13～18 年度までの択一式と記述式の必須科目の試験には、内容と配分に明らかな出題傾向がありました。この出題傾向は、平成 19 年度に記述式試験のみになってからも大きく変化しませんでした。

それは、『国土交通白書』を日ごろから**問題意識を持って熟読**していれば、**必ず解答できる問題**でした。この「建設部門」の必須科目における専門知識の考え方は、平成 25 年度からの択一式試験（問題Ⅰ）にも踏襲されました。

キーポイント 19 必須科目の択一式試験対策のポイント

- ◎ 択一式の必須科目の試験対策では、「建設部門」の現状や「建設部門」が抱える課題とその対策を「専門知識」として理解することが大切です。
- ◎ 択一式の必須科目の試験対策として、「建設部門」の重要事項を過去に出題された問題から洗い出して整理します。

平成 25 年度からの**必須科目の択一式試験対策**は、平成 13～18 年度まで実施されていた**択一式試験の内容を参考**にするとよいでしょう。ただし、技術士第二次試験の内容は、社会情勢との関わりが強く、過去の問題を把握するだけでは、平成 25 年度からの対策になりません。**最近の技術的動向を把握するためにも、「総合技術監理部門」の択一式試験**やほかの資格試験（RCCM など）の最近の内容についても把握しておく必要があります。

「『技術分野』において不可欠な技術、業務遂行に際して、必要な社会制度等に関する専門的な知識」とは何か。これには多くの見解があります。この「何か」を平成 13～18 年度までの**択一式試験を参考**にして、具体的な対策を検討することが受験対策の第一歩です。

- ① 建設部門における「**不可欠な技術**」については、過去の**必須科目（択一式・記述式）**の出題内容と RCCM 試験の「**問題 - IV - (1)：共通基礎技術**」と『**技術士制度における総合技術監理部門の技術体系**』2～7 が参考になります。

- ② 建設部門における「社会的に重要なキーワード」については、過去の必須科目（択一式・記述式）の出題内容と RCCM 試験の「問題-Ⅱ：業務関連法制度等問題」「問題-Ⅲ：管理技術力問題」が参考になります。
- ③ 建設部門における「業務における法規・制度等」については、過去の必須科目（択一式・記述式）の出題内容と RCCM 試験の「問題-Ⅱ：業務関連法制度等問題」「問題-Ⅲ：管理技術力問題」「問題-Ⅳ-（1）：共通基礎技術」と『技術士制度における総合技術監理部門の技術体系』6と7が参考になります。

なお、必須科目ですから、建設部門に関する「社会的に重要なキーワード」が主体になります。また、「不可欠な技術」は、技術士第一次試験との関連から、“不可欠な”技術といっても、専門的な内容となります。ただし、単独の分野では出題されず、「建設部門」全般で社会的に話題となっている「技術的用語」から、1～2問ほど出題されます。「業務における法規・制度等」については、法的な解釈を理解し、技術的にどう活用できるか、法律から制度への技術的な対応が出題されます。

そこで過去問題を整理してみます。平成13～18年度までの択一式試験の問題は公表されていますから、その内容と出題傾向を把握します。しかし、択一式試験が取り止めになってから、多くの社会的な課題が発生しています。この技術的な対応が合格のポイントとなってきます。ただ、社会的な話題やその対策はそう大きく変化することはありませんから、択一式試験の問題の選択肢に使われそうな社会的な内容の現状を把握し、「建設部門」の重要なキーワードを理解すると対策が立てやすくなります。特に数値などは公表されている最新のデータを把握しておけば、非常に有効な対策となるでしょう。

本書では、平成13～18年度と平成25年度の択一式試験などの出題内容を整理し取り出した「キーワード」について、これまでの『国土交通白書』を参考に説明文を作成しておきましたのでご活用ください（4.3 必須科目の択一式試験の要点 [p.61]）。

この「4.3 必須科目の択一式試験の要点」は学習のための資料です。ここで、大切なことは、技術士第二次試験の必須科目としての問題意識を持って、その内容を理解しておくことです。受験者自身で「建設部門」に関わる専門知

口頭試験対策

8.1 口頭試験の内容

8.1.1 口頭試験の概要

口頭試験は、筆記試験では判定できない受験者の能力を判定する試験です。口頭試験は、筆記試験合格者に対してのみ行われます。

口頭試験は、[経歴及び応用能力]（配点 60 点）[技術者倫理]（20 点）[技術士制度の認識その他]（20 点）が問われます。口頭試験に合格するには、すべての評価項目で 60%以上の点数を得ることが必要です。平成 24 年度まで試問された [体系的専門知識] [技術に対する見識] の試問は廃止されました。試験時間は 20 分程度と短くなり、必要に応じて 10 分程度延長されます。試験時間が短くなった理由は、以前は廃止された技術的体験論文の試問に多くの時間を割り当てていたからです。

[経歴及び応用能] は、筆記試験における答案（選択科目 [課題解決能力]）と業務経歴票から試問されます。

[技術者倫理] は、実務を踏まえた試問を重視します。

口頭試験の概要

試問事項	試験方法など	配点
受験者の技術的体験を中心とする経歴の内容と応用能力	[経歴及び応用能力] *筆記試験における答案（課題解決能力）と業務経歴により試問	60 点
技術士としての適格性及び一般的知識	[技術者倫理]	20 点
	[技術士制度の認識その他]	20 点

なお、口頭試験は筆記試験とは別の試験と理解してください。以前は、筆記試験を補完するものと考えられていましたが、独自の試験として位置づけられるようになりました。口頭試験は筆記試験とは別の対策が必要です。

キーポイント 51 **口頭試験は筆記試験と別の試験**

口頭試験と筆記試験は別の試験です。筆記試験を補完するものではありません。口頭試験は筆記試験とは**別に対策**を立てます。

同様に、点数も筆記試験に加点されるわけではありません。どんなに筆記試験の点数が高くても、**口頭試験で合格点をとらないと**、技術士第二次試験は**不合格**となります。

8.1.2 口頭試験の評価基準

口頭試験の「**評価基準**」は〔**経歴及び応用能力**〕〔**技術者倫理**〕〔**技術士制度の認識その他**〕です。そのほかに、質問に対する**理解力**、説明の**説得力**（**プレゼンテーション能力**）、**受け答えや態度**（**コミュニケーション能力**）も評価されます。これにより「技術士にふさわしいか否か」を判定されます。

キーポイント 52 **口頭試験の「評価基準」と評価事項**

口頭試験の「**評価基準**」は〔**経歴及び応用能力**〕〔**技術者倫理**〕〔**技術士制度の認識その他**〕です。

技術士にふさわしい経歴や応用能力、技術士としての適格性（人格や見識）が確認されます。また、**受験者の応答や態度も評価**されます。

8.2 口頭試験の対策

口頭試験では、**経歴**（主に業務経歴票の「業務内容の詳細」について）、**受験動機、将来の抱負、筆記試験（課題解決能力）の答案の内容**、「選択科目」に関する**専門知識・技術動向**、技術士に必要な**技術者倫理**や**技術士法の知識**、技術士たる**人格や見識**などが試問されます。一般的に質問される事項に対する準備は万全にします。

口頭試験対策は、質問される内容について準備をすることです。口頭試験に合格するには、[経歴及び応用能力] [技術者倫理] [技術士制度の認識その他] すべての評価項目で60%以上の点数を得ることが必要ですが、**頻度の高い質問事項を押さえておけば、60%以上は確実に得点**できます。

口頭試験の具体的な対策は以下のとおりです。

キーポイント 53 口頭試験の準備

- ① **業務経歴票に記載した業務の具体的な内容を整理**します（6W3H）。
- ② **業務内容の詳細**（業務経歴小論文）の**具体的な内容を整理**します（字数制限なく）。
- ③ 業務経歴票に記載した**業務に関する専門分野の知識を見直し**ます。
- ④ 選択科目[**課題解決能力**] 試験（問題Ⅲ）の**答案を再現**し、不十分であった箇所を補完しておきます。
- ⑤ 選択科目[**専門知識・応用能力**] 試験（問題Ⅱ）の**答案を再現**し、不十分であった箇所を補完しておきます。
- ⑥ **技術士倫理、技術士法、技術士制度の内容を、実際の業務や社会的事件から理解**します。
- ⑦ 口頭試験のリハーサルをしておきます。**想定問答を作成**し、繰り返します。

口頭試験の配点は、[経歴及び応用能力] 60点、[技術者倫理] 20点、[技術士制度の認識その他] 20点ですので、配点の高い[**経歴及び応用能力**]は**非常に重要**です。[**経歴及び応用能力**]を**中心に対策**を講じてください。試験官

も「経歴及び応用能力」を重視し、「経歴及び応用能力」から試問をはじめます。

8.2.1 受験者の技術的体験を中心とする経歴の内容及び応用能力

(1) 経歴及び応用能力

経歴は、**技術士にふさわしい業務**をしてきたか、「**体験の深さ**」が試問されます。「技術士にふさわしい業務」とは、高等の専門的応用能力（自然科学を基礎とした広い知識と高度な専門技術の豊富な経験による総合的な判断能力）を必要とする計画、設計、評価などの業務です。

また、**応用能力**とは、これまでに**習得した専門的知識や経験などに基づいて**、与えられた条件に合わせ、**正しく問題点を認識し、必要な分析を行い、適切な業務プロセスや留意すべき内容を説明できる**能力です。

受験者が受験申込時に添付した**業務経歴票**（特に「**業務内容の詳細**（業務経歴小論文）」）により試問が行われます。

キーポイント 54 【経歴及び応用能力】のポイント

「経歴及び応用能力」は、**業務経歴票**（特に「業務内容の詳細」）から試問されるので、「第2章 受験申込書と業務経歴票の書き方とテクニック」を理解して、**受験申込時から準備**しておきましょう。

1) 「経歴及び応用能力」の内容と評価項目

業務経歴票に記入された経歴から、技術士にふさわしい実績を持っているか、それをわかりやすくプレゼンテーションする能力があるかが判定されます。

また、「技術部門」の対策技術の原理、「選択科目」に関連した最近の技術動向、その周辺技術について、「**専門知識**」と「**応用能力**」が試問されます。この項目は約5～10分間です。

2) 「経歴及び応用能力」の質問事項

「経歴及び応用能力」の質問事項は以下のとおりです。

◎著者紹介◎

小久保 優 こくぼ・まさる

小久保都市計画事務所（所長）。NPO 土壌汚染技術士ネットワーク（元理事）。技術士（建設部門／環境部門／総合技術監理部門）。APEC Engineer（Civil Engineering Structural Engineering）。EMF 国際エンジニア。環境カウンセラー（事業者部門）。エコアクション 21 審査人、ISO14000s 審査員補、JABEE 審査員（審査長）、労働安全コンサルタント（土木）、経営支援アドバイザー（経営、技術）、千葉工業大学非常勤講師。

著書に『現場で役立つ建設リスクマネジメント 119（単著）』『業務に役立つ建設関連法の解説 119（単著）』『イラストでわかる土壌汚染（共著）』（技報堂出版）、『国家試験「技術士第二次試験」合格のコツ 論文&口頭試験戦略（共著）』（日本工業新聞社）、『技術士第二次試験先見攻略法（単著）』（インデックス出版）などがある。

技術士第二次試験 「建設部門」攻略法

定価はカバーに表示してあります。

2014年4月10日 1版1刷発行

ISBN 978-4-7655-1812-3 C3051

著者 小久保 優
発行者 長 滋 彦
発行所 技報堂出版株式会社

日本書籍出版協会会員
自然科学書協会会員
工学書協会会員
土木・建築書協会会員

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-2-5
電話 営業 (03) (5217) 0885
編集 (03) (5217) 0881
FAX (03) (5217) 0886
振替口座 00140-4-10
<http://gihodobooks.jp/>

Printed in Japan

© Masaru Kokubo, 2014

装幀 濱田晃一 印刷・製本 三美印刷

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

本書の無断複写は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。